

作られたという可能性はどうだろう。残念ながら、オペラ「クリスピーノ」には、病人の上下を置き換えるシーンなど、まるでない。したがって、少なくとも、大木作品が、オペラ「クリスピーノ」だけを参照して作られたと考えるのは無理である。しかし、では、これが、「クリスピーノ」とグリム、もしくは、「クリスピーノ」と落語の両方を参考にして作られているという可能性はどうか。それなら、もちろん、おおいにありうる事である。ダブルルーツ説は、この大木作品にあてはめてこそ、信憑性が出てくる考えであろう。

なお、落語「死神」からは、さらに、新しいオペラやミュージカルも作られたようであり(市川)、このメルヘンの伝播の多様性の一端を示しているようだ。

結び

以上、本稿では、死神のメルヘン、特に、落語「死神」の成立過程をはじめとして、死神メルヘンの様々なヴァリエーションどうしの関係について、従来の説の問題点を述べてきた。特に、落語「死神」がオペラ「クリスピーノ」から作られたという説が間違いである可能性が高いことは、改めて強

調しておきたい。今後、落語「死神」の解説を書かれる方には、従来の「クリスピーノ」ルーツ説と、本稿で提唱したグリム単独ルーツ説、それに山本氏や石井氏等のダブルルーツ説(註六)のうち、どれが正しいのか、是非、吟味していただきたい。

(名人) (石井) (今村三) (今輔) は山本進氏が教えてくださった。山本氏からは、直接お電話をいただき、助言をいただいた。「クリスピーノ」に関しては、「関係ないという事の証明は難しい」と話しておられた。全く、その通りであり、それが、「クリスピーノ」ルーツ説が今まで生き延びてきた原因であろう。加えて、これが、速記者として、落語家から多くの情報を直接聞ける立場にあつた今村信雄氏の記述であつたことも大きいようだ。

本稿の公開によって、新たな情報、意見が寄せられる事を期待している。また、その場合には、筆者のホームページ(童話作家・北村正裕の部屋)で、随時、最新情報を掲載する予定である。

<http://member.nifty.ne.jp/kitamura-masahiro/>